

## 成生地域

実施日 平成20年8月1日（金）

市民のこえ	所管課等	回答及び対応状況
<p>① 成生地区における遊休農地の現状とその原因をお聞きしたいと思います。また、その減少及び解消対策について、市の考えをお聞きしたいと思います。</p>	<p>農業委員会</p>	<p>遊休農地の問題は、成生地域だけでなく、地元と行政が一体となって取り組む問題です。</p> <p>成生地区の遊休農地は、15年は3.5ヘクタール、19年は3.4ヘクタールとなっています。</p> <p>遊休農地の発生原因は農業経営者の高齢化、兼業化など様々ありますが、最も顕著な原因としては、後継者不足が挙げられます。</p> <p>市では、新規就農希望者に対し、手続きの仕方、支援の方法などの相談窓口を開設しています。若い方、団塊の世代の方など多くの方々が新規就農を希望されることを期待しているところです。</p>
<p>② 来年、向原地区の子どもが一人、天童北部小に入学すると聞いているが、その後しばらく入学する子どもがいません。低学年で一人で通うのは危険であり、安全策を講じていただきたい。通学距離だけの問題ではありません。</p> <p>また、押切川橋には下流側にしか歩道がなく、狭くて危険であり、橋の西側の子どもたちは、橋の手前で横断しなければならず、極めて危険です。通学路及び通学時の安全対策について市の考えをお聞きしたいと思います。</p>	<p>教育総務課 建設課</p>	<p>向原地区から来年4月に天童北部小学校へ新1年生の児童1名が入学し、その2年後からは毎年入学者が続くことになっており、大変喜ばしいことと思っています。</p> <p>今年4月からの2年間は、乱川地区の通学班のあるところまで一人で通学しなければなりませんので、昨年8月5日に向原地区役員の皆さんと教育委員会、北部小学校の先生が通学の安全確保について話し合いを行いました。その結果、児童が安心して通えるよう、保護者や地域の方々、学校、教育委員会が一体となって取り組むことを確認し、ソフト面で保護者や地域、学校の協力を得ながら、ハード面では安全確保に向けての道路の整備、危険箇所の解消、通学路灯、警戒標識の設置などの環境</p>

成生地域

実施日 平成20年8月1日(金)

市民のこえ	所管課等	回答及び対応状況
		<p>整備を進めています。</p> <p>また、県道天童河北線の押切川橋から成生郵便局までの区間で、歩道が、途中で反対側に設置されているため、通学児童が横断する必要があります。市では、地域と一緒に、子どもたちの安全を図るため、引き続き県に交通安全施設の整備を要望していきます。</p>